

[037] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10233>

出版情報：語文研究. 37, 1974-08-31. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

福田良輔博士追悼号を世に送る。集める論稿十二篇、すべて先生を悼み懐しむ至情に溢れたものばかりである。締切日には、わざわざ遠隔地から夜汽車でお届け下さった方などがあって、まことにありがたいことであった。

学者の御霊に献ずるには、学問以外の他言は無用である。儀礼的な辞は極力おさえての編集である。なお小島吉雄先生には、近来御静養中で、御寄稿いただけなかったが、くれぐれも宜しくとのことであった。

福田先生は、学問的苦勞人であられたし、また語学文学の二刀流と自他ともに許した器用人でもあられた。そしていわゆるよき時代の帝国大学講座主任としての面目を止めておられた数少ない存在でもあった。幾多学問的業績を遺して、先生は逝き、かくして一つの時代が去ったかの感が深い。

終りに、先生御他界以来、本号発刊まで、何くれと御援助を賜わった、青山学院大学、九州産業大学御当局ならびに関係諸教官各位の御芳情に厚く感謝を捧げる。

(編集係)

福田良輔博士の御遺族から御遺志として、当会あて金五万

円也の御寄付がありました。

この御寄付を当会活動のため、有意義に活用させていただきますことになりましたことを、会員各位に御報告申し上げます。